

五島列島若松町の地質

鎌 田 泰 彦*

(昭和41年1月17日受理)

Geology of Wakamatsu-jima and the environs, Goto Islands

Yasuhiko KAMADA

1. ま え が き

日本列島の最西端に位置する五島列島の全般的な地質学的知識は、神津俣佑 (1913) によって福江図幅説明書に記述された以外はきわめて貧弱であった。しかし、1950年代に入って、研究調査に訪れる地質学者の数も次第に多くなり、最近では詳細な研究報告も次々と公表されるに至っている。

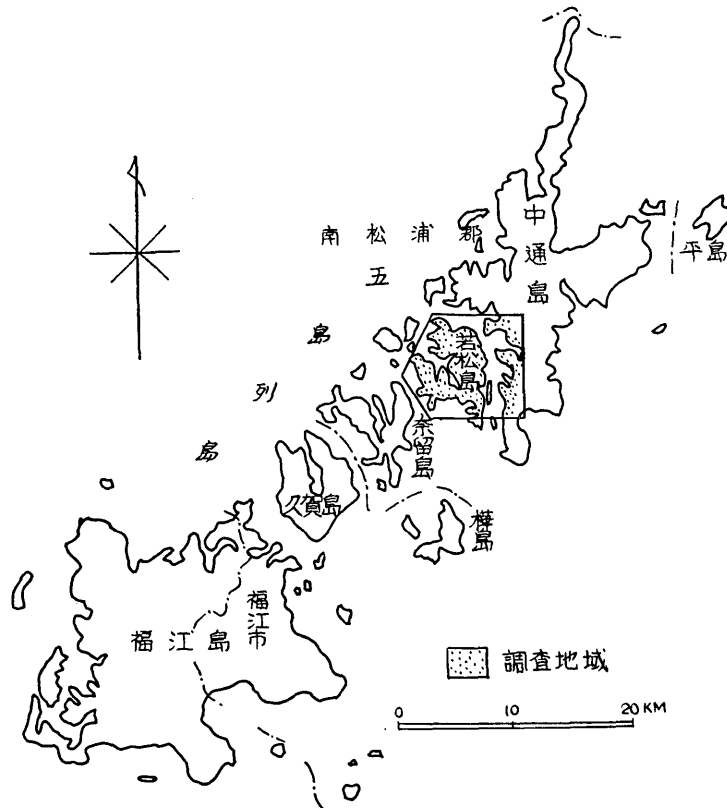
筆者は、長崎大学五島地方総合学術調査の一環として、昭和33年10月に、とくに現地からの要望が大きかった長崎県南松浦郡若松町の地質と地下資源について調査する機会をもった。調査地域は若松町の大部分を占める若松島を主としたが、若松瀬戸に面した中通島の西岸ぞいの主要路線もあわせて踏査した。調査結果は、総合調査の報告書中に含めているが、同書の配布範囲が限られていたため、五島列島の地質研究者から専門機関紙に発表することを再三要請されてきた。調査が概査的なものであるし、その後精査を行なう機会をもたないまま7年間を経過しているが、最近数年間行ってきた福江島の調査の進展にともない、若松町の調査資料の再検討も行ってきているので、ここに再びその一端を記述することにした。

この調査の際には、総合学術調査を企画・主宰された元長崎大学教授吉田敬一博士より、とくに温情厚い激励をたまわり、現地では当時の若松町長荒木米太郎氏、助役中村周太氏をはじめとする町当局の理解ある御援助をうけた。また若松町浜崎正之助氏には終始野外調査に同行されて種々の便宜を計って頂いた。室内研究では、熊本大学千藤忠昌教授、地質調査所大町北一郎・松井和典・長浜春夫の各技官、中興鉱業野村幸平氏、元飯野鉱業田代信夫氏、九州大学高橋良平、松本征夫博士に種々貴重な御意見を頂いた。これらの方々に深く感謝の意を表するものである。

* 長崎大学学芸学部地学教室

2. 地 質 概 説

調査地域の若松町内の地質は、若松島と若松瀬戸をはさんだ対岸の中通島南部の西岸地域とでは著しく異なっている（第1図）。



第1図 五島列島位置図

若松島を構成する岩石は、砂岩・泥岩を主とする堆積岩類と、これらに貫入するか、またはこの上に流出した流紋岩・石英斑岩・玄武岩などの火成岩類である。前報（1958）では堆積岩類を一括して仮りに若松層群とよんだ。しかしその後植田芳郎（1961）によって、福江島に発達する五島層群の層序・岩相・地質時代が明確にされ、その特徴が若松層群に類似する所から若松島の地層をも五島層群に包含させることにする。

現在までは若松島においては地質時代を示すような有効な化石は発見されていない。最近、隣接した奈留島より佐世保炭田の野島層群に特徴的な淡水棲貝化石の発見が、長浜春夫・水野篤行（1965）によって報告された。若松島の地層は奈留島*ときわめてよく類似した岩相的特

* 昭和39年7月に概査を行った。調査の便宜を計って頂いた奈留町長夏井一郎氏、奈留小学校長崎連氏、奈留町教育長市山淳一氏、教育委員長笠松実氏に厚くお礼を申上げる。

徴をもち、長浜・水野が提唱した五島一野島沈降帯とよぶ中新世後期の一連の堆積盆地内の生成物と考えることができる。従って、若松島の五島層群も中新統と考えるのがもっとも適当と思われる。

若松瀬戸以東の中通島西岸の郷ノ首以南では、若松島に分布するような五島層群に属する地層は確認されていない。海岸ぞいの路線に分布するのは、大部分が無層理の火山砕屑岩であって、これが独立した地質単元をなす所から築地層とよんでいる。

若松島と中通島とは、著しい地質の相異があるが、これを境するのは著しい破砕帯をともなう南北性の郷ノ首断層であり、若松瀬戸の直線的な溺谷の根本的な成因は、この断層の存在に起因しているものと考えられる。

3. 地 質 各 論

A. 若松島の五島層群

五島層群に属する地層は、若松島の北部と西部に良好な露出をもち、南東部では火成岩類の分布が著しいため露出は断片的である。地層は南部より北部に向い次第に上部が地表に露われる。下部は黒色泥岩を主とする地層であり、上方に向かって次第に砂岩を挟在して互層を形成し最上部は砂岩がさらに優勢となって、数層準に凝灰岩を挟在する。これらは全く整合的に重なる一連の地層であるが、岩層区分として3分し、上位より月ノ浦層*、若ノ浦層、筒ノ浦層の3累層を識別した。これより下位の地層は奈留島に分布するものと推定される。全層厚2,500m以上に達する。

1) 筒ノ浦層 Tsutsunoura formation

(模式地) 若松島筒ノ浦より針木に至る海岸。

(岩相・分布) 黒色頁岩を主とする地層であり、これにうすい板状の砂質泥岩または微細粒砂岩が挟在することにより層理が発達する。下限は不明であるが、上限は砂岩の量を増して互層帯をなす部分より若ノ浦層に漸移する。模式地南部の筒ノ浦より東方へ若松越(浦ノ内という)に至る間は、火成岩の貫入のため断続するが、本層のものと思われる泥岩が露出する。また南東部の神部より白浜に至る地域では、流紋岩の貫入のため硬化、変質した泥岩の小露出が点在しているが、殆んど砂岩をまじえていない所から本層の一部と考えられる。

(層厚) 480m以上。

2) 若ノ浦層 Wakanoura formation

(模式地) 若松島神ノ浦より若ノ浦、高旅を経て月ノ浦に至る海岸地帯。

(岩相・分布) 全般に細粒砂岩と黒灰色泥岩の互層よりなるが、下部は互層の各単層の厚さが薄い、上部に厚くなる傾向がある。一般に砂岩は泥岩より厚く、砂がち互層を主とし、砂

* 前報(1958)では大平層としたが、この地層名はすでに鈴木好一・北崎梅香(1949)が、石川県下の穴水累層中に大平層(中新世中期)として使用しているので、ここで月ノ浦層と改名する。

地層名		層厚	柱状図	岩相的特徴および分布
玄武岩類				玄武岩岩脈として五島層群や石英斑岩を貫く。郷、若、浦層以西に10数本知られる。
酸性火成岩類				若松島において、五島層群に侵入し、各所で岩脈として侵入する外、大きな火成岩体(餅盤? 若岩)を形成する。主として流紋岩・石英斑岩よりなる。
ちい築地層				火山礫・凝灰岩を主体とする層理不明瞭な火山碎屑岩であり、郷、若、浦層以西にのみ分布する。築地附近では地層が泥岩を挟む。西に長尾石を含む。
五島層群	月ノ浦層	800 M ±		厚層の砂岩よりなり、数層群に比較的に厚い頁岩を挟む。最下部には黄緑色の凝灰質粗粒砂岩があり、上部には白色粗粒凝灰岩が一層を達する。砂岩には時に偽層が見られ、また泥岩の同時礫を含む。泥岩中に植物化石(黒サレ)や連続性に乏しい薄層(月ノ浦)が含まれる。月ノ浦や大平の北方海岸に分布する。
	若ノ浦層	1200 M ±		層理のよく発達した細粒砂岩や砂岩・泥岩の互層(砂が互層)よりなる。砂岩には時に偽層や連続などの柱状構造が認められる。若ノ浦・月ノ浦両海岸および瀬戸内東方の海岸によく好露出が知られる。
	筒ノ浦層	450 M ± (下限不明)		黒色泥岩を主とする地層であり、しばしば緻密な微細粒砂岩の薄層を挟む。上部では細粒砂岩とはさんで互層を示す。若ノ浦層には漸移する。筒ノ浦北岸の海岸に好露出を見る。(これより下方の地層は奈留島に分布すると予想される)

第2図 五島若松町地質柱状図

岩自身にさらに泥岩の薄層をはさんで板状を呈する場合が多い。砂岩は細粒～中粒のよく分級された石英粒に富み、風化面は明るい色調をもった黄橙色を呈す。また上部の砂岩中には偽層や漣痕が多く見られる。

本層は模式地の対岸の瀬戸脇より原塚を経て針木に至る海岸においても良好な露出があり、特徴的な互層が発達する。また北東部の男鹿ノ浦とその対岸の中通島郷ノ首一大串崎間にも典型的な互層帯が発達する。

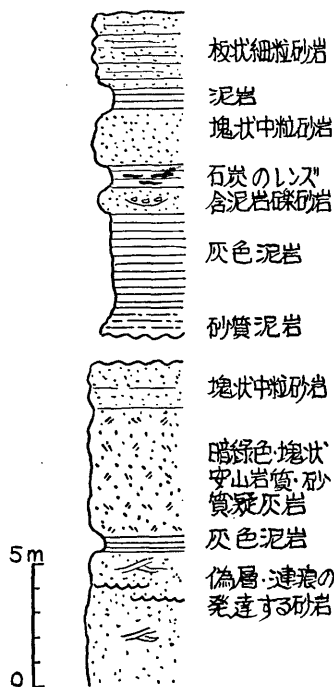
(層厚) 約 1,200m。

3) 月ノ浦層 Tsukinoura formation

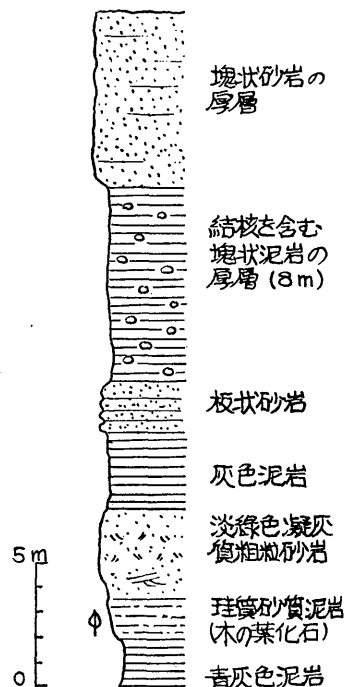
(模式地) 月ノ浦以北、および大平より若松島北端のピシャゴ瀬に至る海岸。

(岩相・分布) 主として厚層の細粒砂岩よりなるが、厚い黒色泥岩を挟む部分もある。

月ノ浦新四郎鼻において露出する暗緑色の安山岩質凝灰岩をもって本層の下限とする。この凝



第3図 月ノ浦における月ノ浦層最下部の柱状図



第4図 大平北方“黒ザレ”における 月ノ浦層中部の柱状図

灰岩は石英、斜長石と安山岩の角片を含む砂質のもので、約5mの厚さをもつ。同層準の凝灰岩と思われるものは、北東部の小河原分教場こごら附近に露出する。

大平北方の立瀬とビシャゴ瀬との中間にある、通称“黒ザレ”においては、結核を豊富に含んだ厚さ8mの青灰色泥岩が露出し、その下位に白色の粗粒凝灰岩が一層あって、この下より植物化石を産する。また大平の初が瀬の厚さ3mの黒色泥岩には植物の破片が沢山含まれ、土地の人の話ではかって木の葉の化石の良好なものが産したとのことである。大平、小河原の海岸に露出する本層の砂岩中に、偽層やこれにともなって泥岩の同時礫をもつ堆積構造が発達している。若松瀬戸のもっとも狭い部分の猿ノ浦北部と、その対岸の大串崎以北では、本層の最下部がホルンフェルス化して著しく堅硬になっている。

(層厚) 800m以上。

B. 若松島の火成岩類

若松島においては流紋岩～石英斑岩の大規模な岩体が、島の中央部より南部にかけて広く分布し、底部は南部に低くなる傾向が見られる。北部では三年ヶ浦の海岸一帯に同じ岩体が分布する。周縁部には堆積岩の捕獲岩をもつことが普通である。これらの火成岩体は五島層群中に餅盤状に貫入したものから、被覆して流出したものまで種々の産状を呈する。岩質は、一般に灰白色を呈する緻密なものが多く、斑晶として周縁を融蝕された石英と斜長石をもち、石基は

流理構造を示すものが多く、また spherulite が発達し、流紋岩質である。斑晶中の鉄苦土鉱物は緑泥石に変るが、若松越の峠附近の岩体には比較的大粒の黒雲母が含まれている。

石英斑岩の岩脈は多くの場所で五島層群を切っているが、幅は2～3mのものが多い。岩脈をなす石英斑岩中には、大型の石英斑晶をもつことがあり、径1cmに達することがある。高旅と瀬戸脇にとくに顕著なものが露出し、石英は融蝕を受けて円味を帯びる。この性質は、五島列島の石英斑岩～花崗斑岩に普通に見られる特徴である（神津俣佑，1913；植田芳郎，1961；橘行一，1962）。神津によって、若松町有福島より閃緑岩質花崗岩の産出が記述されているが、若松島においては花崗岩は露出していないものと思われる。

若松層群を貫いて玄武岩の岩脈も発達する。脈幅は1～2m位のものも多く、若松島内で約10条確認したが、岩脈の走る方向は南北性のものが多い。風化している場合は玉葱状構造をなし、芯に当たる部分に球状の暗緑色の新鮮な部分が残る。鏡下では輝石は緑泥石化しているが、lath 状の斜長石と輝緑岩組織をなしており、粗粒玄武岩といえる。

玄武岩岩脈は時には石英斑岩の岩脈と平行して貫入し、複合岩脈をなす場合（間伏小学校月ノ浦分校前の海岸の例）があるが、流紋岩中に岩脈として露われる場合（神部の例）があるので、玄武岩の活動は石英斑岩のような酸性火成岩より後れて行われたものと考えられる。

C. 築地層 Chiji formation

（模式地） 中通島西岸築地より白魚に至る地域。

（岩相・分布） 火山碎屑性の火山礫凝灰岩や凝灰質砂岩・泥岩よりなる。殆んど無層理の厚い地層である。火山礫凝灰岩の新鮮な部分は溶結してきわめて堅硬であるが、風化した部分はよごれた黄褐色を呈し軟弱となる。鏡下では、破片状の石英や加里長石と、安山岩質火山岩の岩片をもつ外、少量の斜長石や堆積岩起原の岩片も認められる。

本層には五島層群の構成岩と思われる全く凝灰物質を含まない分級のよい砂岩や、黒色の泥岩の大きな岩片を含むことがある。若松瀬戸の中のコヂ島では、長径最大35cmの砂岩や長径75cmの泥岩塊が火山礫凝灰層中に含まれている。また流紋岩の岩片が入ることも多い。

凝灰質砂岩や泥岩は不規則に挟在し、層理はきわめて不明瞭である。この部分よりは稀に貝化石が産出するが、保存はきわめて悪い。元倉と築地において、*Corbicula* と思われる二枚貝化石を採集した。築地には炭鉱の旧坑があり、厚さ21cmの石炭層が発達し、上下盤とも泥岩である。また白魚と深浦では炭質頁岩が露出し、炭化した植物の破片を多量に混じえている。深浦、築地、白魚の炭質頁岩はほぼ同一層準のものであろう。

本層は若松瀬戸に面した、南は桐より北は元倉に至る海岸地帯で確認したものであり、郷ノ首以北には五島層群（月ノ浦層か？）が露出するため、その分布は絶たれる。これと類似した岩層は、有川町の有川港周辺や、その西方の蛤海岸にも認められ、中通島南部を構成する火成岩類の下半部は築地層のような火山碎屑岩で占められているように推定されるが、詳細については今後の調査にまたなければならない。

(対比) 築地層は若松島には全く分布しない。本層は著しく火山碎屑性であり、コヂ島で五島層群の構成岩石の碎片を多量に含んでいる点や、若松島の五島層群が示す地質構造には関与していないと考えられる所から、直接関係する露頭は知られていないが、五島層群に対しては不整合関係にある新期の産物と考えている。

最近明らかになってきた所では、福江島にも築地層に類似した地層が存在する。二里木場川下流や中須川下流地域には、頗る堅硬な溶結凝灰岩が広く分布している。これらは褶曲運動や酸性火成岩の貫入を受けている五島層群を被覆しているものであり、岩質と下位層に対する地質構造的関係は築地層の場合と非常によく似ている*。

4. 地 質 構 造

若松島北半部の五島層群は、北方に開いた半盆状構造(榊ノ浦盆状構造とよぶ)を呈し、地層は東側で北西に、西側で北東に20~40°傾斜する。この東翼の東岸にそった地域の地層にはさらにNE~SW方向の軸をもつ脊斜・向斜が認められる。また筒ノ浦附近では筒ノ浦層が脊斜を呈している。

調査地域内で岩層分布を支配するもっとも重要な断層は、若松瀬戸中を南北に通ずる郷ノ首断層である。本断層を直接確認できるのは、郷ノ首と彦浦附近であり、破碎帯をともなう多数の小断層が発達し、断層東側の岩石は著しく珪化している。若松瀬戸の中のヤク丸島は東に70°以上急傾斜する若ノ浦層により構成されるが、その対岸やコヂ島は築地層の分布地で、郷ノ首断層の南の延長はヤク丸島とコヂ島の間に伸びていることが推定される。東落ちの正断層で、落差は約400mである。

若松島北東部には男鹿ノ浦、猿浦間の岬附近より天神山(海拔306m)に延びる推定断層(天神山断層)がある。本断層の東側に限り、幅500mの間は著しくホルンフェルス化して堅硬な岩石となっている。対岸の大串崎の西側にもこの変成帯の延長が認められる。

本地域内の断層は南北性のものが多く知られる。榊ノ浦北方の谷中の硫化鉄鉱床も南北性の断層破碎帯に鉱染作用が行われたものである。すでに述べた玄武岩岩脈の方向にもこの方向が多いことは、断層と岩脈とは同じ地殻運動によって生じた張力亀裂に関係していることが考えられる。

5. 鉱 床 (地下資源)

若松町内で現在稼行されている鉱床は全くない。以前にわずかに採掘されたものとしては、榊ノ浦硫化鉄鉱床と築地の石炭層がある。また古い時代に金鉱を目的としたと思われる試掘跡が、石英脈や珪化帯の発達した所に数箇所見られる。この外、今回の調査で明らかになったも

* この事実は、最近福江市と富江町の依託調査による野外研究により明らかになってきた。詳細は近い将来発表するように準備中である。

のに、神ノ浦の鉄鉍脈と陶土、神部の臘石鉍床、郷ノ首北方海岸の硫化鉄鉍染帯などが挙げられる。

若松島の鉍床はいたって小規模なものであるが、いずれも酸性火成岩の後火山活動によって生じた浅熱水型鉍床である。福江島におけるダイアスポアおよび臘石鉍床も花崗斑岩および五島層群の砂岩・頁岩の一部が交代して生じた気成～熱水性の浅い交代鉍床とされており（岩生周一・他3名, 1953）, 若松島より福江島に至るいわゆる下五島は、新第三紀の鉍化作用を受けた同一の鉍床区に属するものと考えられる。

1. 神ノ浦硫化鉄鉍床

神ノ浦湾奥の海岸より北の谷に約400m入った所に硫化鉄の旧坑がある。昭和24年頃（26～27年頃ともいわれる）に佐世保の人により採掘されたといわれる。旧坑内は水が溜っていて詳細なことは判らないが、鉍床は石英斑岩を母岩とした断層破碎帯の粘土中に、黄鉍鉍が染鉍したもので、露頭で見える限りではその脈幅は1mある。採掘跡の様子からみると、下方に鉍脈が続いている模様である。この鉍床の西端はN12°W方向の断層（傾斜60°W）により限られ、谷川はこの断層線にそって南流する。鉍石中の黄鉄鉍には五角十二面体をなす美晶が多く、塊状のものは少ない。大きい結晶は径が2cmにも達する。

2. 郷ノ首西方海岸の鉍泉と硫化鉄鉍床

郷ノ首西方の赤崎、大串崎の中間（上五島町浜浦に属する）では古くから鉍泉が湧くことが知られている。湧水口は4か所あるが、最も北の海崖の下部のものが湧水量が多い。水温18.5°C（昭和33年10月21日測定）であり、温度の上では温泉の湧出の可能性はない。これらの湧泉附近は泥岩起原のホルンフェルスであり、硫化鉄の細脈が著しく発達する。とくに海崖の上方では約1.5mの厚さの部分が硫化鉄により染鉍されて黄色を呈している。

これら硫化鉄鉍床の2例は、稼行の対象とはならないが、類似の現象が五島列島内の所々に存在することは注意を要する。著しい例としては、奈留島の東風泊海岸の砂岩・泥岩の互層中に染鉍したもの、福江市の多々良島において流紋岩や砂岩中に染鉍したものがある。いずれの場合でも硫化鉄の塊状鉍体は形成されず、母岩中に散在的に染鉍し、母岩もこの鉍化作用によって変質を受けている。

3. 男鹿ノ浦東方海岸の石英脈

男鹿ノ浦の約700m東方の海岸に2条の石英脈がある。西側のものは4mの幅をもち、N20W方向に延びる。旧坑があるが、石英脈をつき抜けて、黒色泥岩中を掘進している。これより東方へ約100m離れた所では、珪化した砂岩・泥岩の互層中にN30°E方向に延びた幅4mの石英脈があり、黄鉄鉍の微晶を含む。両者共地表では著しい“焼け”を生じている。

4. 神ノ浦の鉄鉍脈と陶土

神ノ浦東北部の石英斑岩中に断層破碎帯と思われる幅25cmの亀裂群があり、走向N35°W、傾斜65°Wを示す。この中に幅5～6cmの紫黒色の鉄鉍脈があり、鉍物として磁鉄鉍と少量の

赤鉄鉱が含まれる。また孔雀石も附着する。頗る細脈であるが、第三紀の鉄化作用としてこのような鉄鉱脈を生成しているのは珍しい現象である。

この鉄鉱脈より約200m北方には石英斑岩が陶土化した部分がある。多くの小断層が発達し、これから上昇した熱水液により変質が進んだものと思われるが、鉄量についての精査は行われていない。分析結果を次に示す。

SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	S K	M.P.
67.73%	19.16%	1.92%	31	1,690°C

(佐世保分析所, S32-3-1)

5. 神部臘石鉄床

神部港の北岸にそった地帯には、砂岩を交代した臘石鉄床がある。母岩の変質帯は東西に約300mにわたるが、その西部の方に臘石化が進んだ部分がある。しかし、完全な葉臘石は地表では採集できなかった。神部港南部の小学校附近にも同様な変質帯があるので、神部一帯をさらに臘石地帯として精査の必要がある。

6. 郷ノ首断層以東の珪化帯

郷ノ首断層の東側には、堆積岩や火山砕屑岩が著しく珪化した部分が見られる。北より上五島町の真手ノ浦、若松町の高仏・郷の首・大浦などの地域である。これらの珪化帯では、水晶の微晶が群生する晶洞をもったり、黄鉄鉱により染鉄されて、地表で著しい“焼け”を生じている。各地の試料につき腕掛けを行ったが、金は検出されなかった。

7. 築地の石炭

築地では、戦時中に石炭の採掘を行って月100t程度掘出したといわれている。戦後は昭和22~23年頃、福岡の人により約半年間採炭されたが、永続はしていない。調査当時坑口の近くには約2t程の貯炭が残っていた。炭鉄附近は築地層に属する塊状の火山砕屑岩が露出するが石炭層は上下盤に泥岩をともなって南東に56°傾斜し、山側に突込んでいる。炭丈21cmである。

白魚、深浦にも浅く掘った試掘跡があるが、単に炭質頁岩を探ったのみで、炭層は露出していない。

築地の石炭は無煙炭*といわれているが、分析値は次の通りで、灰分が多く良質とはいえない。薄層である点も含めて今後開発されることは困難である。

採取位置	発熱量 カロリー	灰分 %	水分 %
炭層露頭	5,795	17.85	8.25
貯炭場	5,959	22.07	3.38

(飯野炭鉄松浦鉄業所分析 S33-11)

* 最近高橋良平(1964)によって築地炭の石炭組織の研究が行われ、潜在する深成岩体の影響で無煙炭領域まで高石炭化作用を受けたものと判断されている。

6. あとがき

本調査は地質学的には殆んど処女地に近い若松島とその隣接地を対象として行ったものである。若松島においては堆積岩に対して岩層区分を行い、地質構造も大よそ判明したが、若松瀬戸をはさんだ対岸の中通島の地質はこれとは全く異質的なものであり、両者は郷ノ首断層で互いの分布を絶たれていることが知られる。今後の問題点は築地層の本質と地史的位置づけの究明にあると考えられ、中通島の地質の精査がとくに望まれる。

主 要 参 考 文 献

- 岩生周一・浜地忠男・山田正春・井上秀雄（1953）：長崎県五島福江島のダイアスポアおよび蠟石鉱床調査報告，地調月報，**4**，2，81—97.
- 鎌田泰彦（1958）：五島若松島の地質および地下資源 長崎大学五島地方総合学術調査報告，55—60.
- 神津俣佑（1913）：20万分の1地質図「福江」および同説明書 1—55. 地質調査所
- 松井和典・今井 功・片田正人（1961）：五島列島中通島および相ノ島でみいだされた変成岩類（予報），地調月報，**12**，3，201—206.
- 長浜春夫・水野篤行（1965）：五島列島奈留島産の中新世淡水棲貝化石群および関連する若干の問題 地質学雑誌 **71**，836，228—236.
- 橘 行一（1962）：五島列島と西彼杵半島間の第三系基盤岩類，特に長崎県下の花崗質岩類と関連して 長崎大学教養部紀要 **3**，24—43.
- 高橋良平（1964）：五島中通島，築地炭の炭質 日本地質学会西日本支部会報 **37**，5—6.
- 植田芳郎（1961）：五島層群の研究 九大理研報（地質），**5**，2，51—61.



1. 中通島郷ノ首西方海岸における若ノ浦層の板状砂岩



2. 若松島大平海岸の月ノ浦層中に見られる泥岩の同時礫と偽層



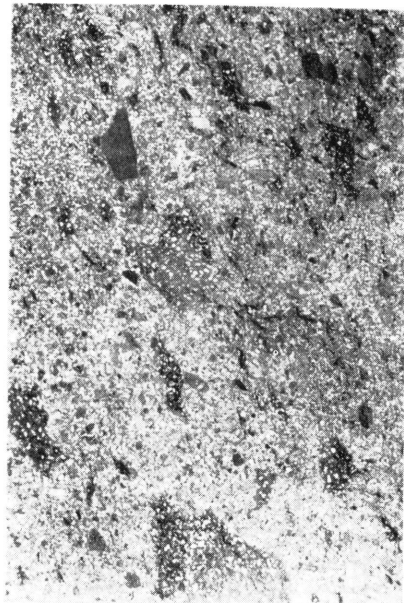
3. 若松島, 月ノ浦における若ノ浦層を貫く白土化した石英斑岩の岩脈



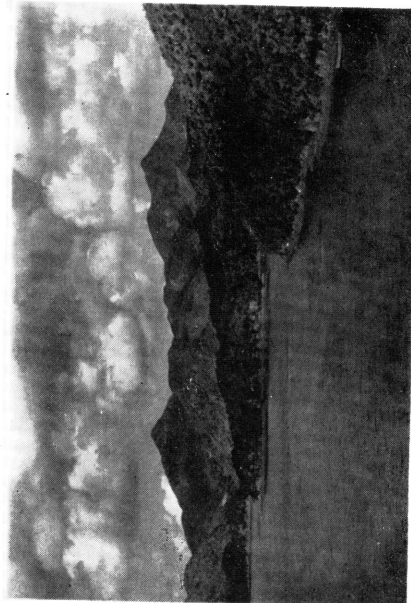
4. 若松島大平北方初ヶ瀬における幅2 mの玄武岩岩脈
(中央の黒色部)



5. 中通島白魚の築地層。突出部が新鮮な岩体で、その周囲は風化して黄褐色を呈する。



6. 左図の露頭の接写。(ほぼ実大) 白色斑点が加里長石・石英など、暗色部は主に岩片である。

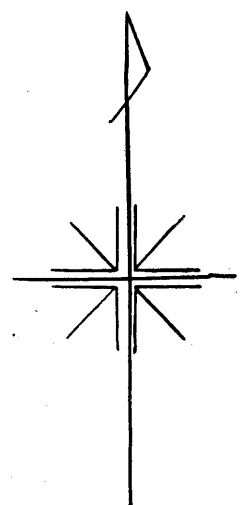
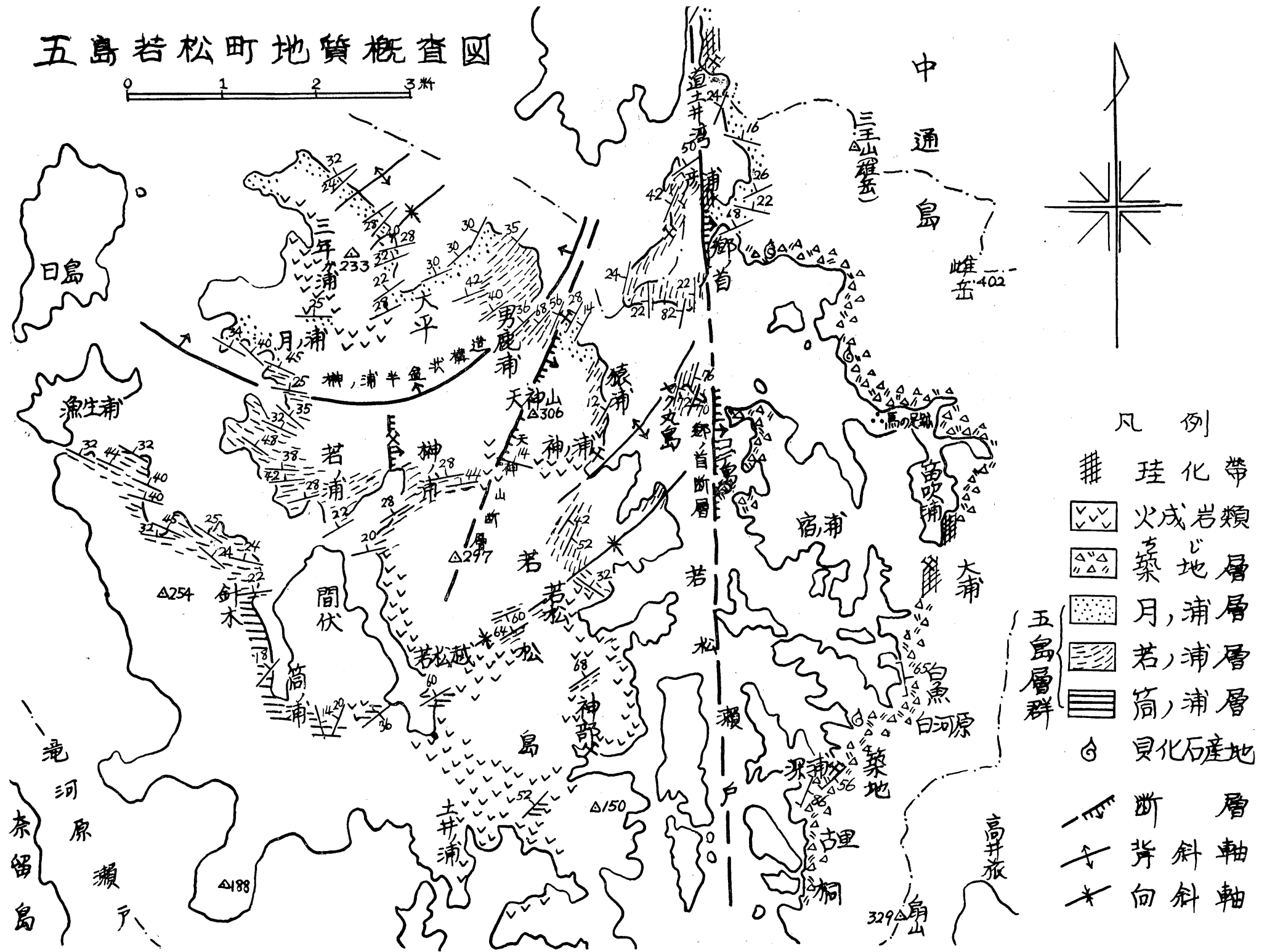
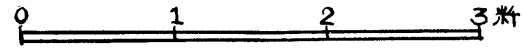


7. 中通島白河原海岸より見た三王山(雄岳) (左) と雌岳 (右)。近景の丘陵地は築地層よりなる。



8. 中通島笛吹浦北岸における築地層の特有な海食面。俗に“馬の足跡”という。

五島若松町地質概査図



凡例

- 珪化帯
- ▽▽ 火成岩類
- △△ 築地層
- 月浦層
- 若浦層
- 高浦層
- 貝化石產地
- 斷層
- ↗ 背斜軸
- ↘ 向斜軸

第5圖 五島若松町地質概査図